

第 103 回二科巡回展（京都展）

2018 年 10 月 2 日（火）～7 日（日） 京都市美術館別館

●絵画部 彫刻部

今年もまた本館工事のため、京都市美術館別館での開催となりました。会期は 2018 年 10 月 2 日より 7 日までの 6 日間開催されました。

昨年一度経験した会場のため、展示はスムーズに進みました。1 階展示室に会員の巡回展作品（評議員まで）と一部の受賞作品、2 階に地元会員、会友、一般出品者そして受賞作品を並べました。しかし、大作は館の構造上全て 2 階に展示ということになりました。彫刻は 1 階の展示室中央に並べ、例年のように絵画とのコラボ展示となっています。

展示数は絵画 116 点（昨年は 120 点）、彫刻 12 点（昨年 15 点）と昨年に比べ少し余裕がありましたが、やはり空間の狭さが問題でした。

ギャラリートーク、ギャラリーコンサートは年々盛況になってきています。今年の受賞者は内閣総理大臣賞に黒川彰夫。会員賞に石橋国夫、北村美佳、石田勝己。会友賞に的場五十彦、三津川好則、柳澤綾子で一般からの受賞が無く次回の奮起に期待するところです。地元の京都新聞賞には佐々木晴美。今後の課題としては、京滋とも出品者の確保です。

●デザイン部

デザイン部は全国巡回作品（会員、会友、一般）59 点と京・滋関係一般の 2 点と合わせて 61 点の展示。今年も会場が狭くなった中で、自由テーマ・ポスターや特別課題「持続可能な開発のための ICT」をテーマとしたポスターを中心にイラストや小型グラフィックの 4 部門にわたるバラエティーにとんだ展示になった。

イラスト部門の小出富子（京都）の作品が京都新聞賞を受賞。会友推挙と合わせて W 受賞で華を添えた。

●写真部

二科巡回展京都展は仮会場での展示は 2 年目です。

二科会写真部の一般応募の部門が新しく C 部（アート・フォト）が新設されました。不安は有りましたが新たな写真表現の発展性を予感いたしました。が、しかし一方ではチョット行き過ぎの感じも致します。本来写真芸術という観点から思うと考へなければならぬとも思います。

今年の展示数が去年より 20 点増えました。展示期間中、写真部西岡名誉会員と八木会員がそぞぞれの日にギャラリートークをさせて頂き来館者数共々大変好評で御座いました。

今年は滋賀県の松田博光様が応募されさらに入賞されました。おめでとう御座います。

写真を愛している人は気持ちを新たに制作に精進され二科会写真部発展の為に皆様どしどし応募ください。

